

陸水域の生物多様性

水は地球上の多くの生命にとって欠かせないものです。河川をはじめ湖沼、湿地、湧水地などの陸水域は生物多様性の重要な基盤となっています。

陸水域とは？

陸水域とは、陸地に囲まれた水域の総称であり、河川、湖沼、湿地等が含まれます。

河川・湖沼

河川や湖沼などの水系は、森林、農地、都市、沿岸域などをつなぐことで国土の生態系ネットワークの重要な軸となっています。



湿地

湿地は特に生物多様性が豊かな地域であり、国内のラムサール条約の登録地は計37ヶ所、13万1,027ヘクタールにのびます。人為の影響を受けやすい脆弱な生態系でもあります。



陸水域の生物多様性からもたらされる自然のめぐみ

暮らしの基盤	魚類や貝類などの漁獲物
	産業・生活用水等の水資源
	水力発電によるエネルギー
すべての生命の存立基盤	湖沼等での栄養塩類の循環
	水系を通じた水の循環
	水生植物や植物プランクトンによる酸素の生産と二酸化炭素の吸収
豊かな文化の根源	様々な水生生物の生息・生育の場
	釣り、カヌー、エコツアー等々の野外レジャー 湖畔等の美しい景観
自然に守られる私たちの暮らし	湿原、水田などによる湛水機能

陸水域の生物多様性の危機

- ダムや堰の建設、河川改修等による河床材の変化や連続性の分断
→様々な水生生物の生息・生育の場が減少してきています
- オオクチバス等の侵略的外来種の侵入
→在来の水生生物の減少により、種の多様性が低下した水域があります
- 流域の人口増加等による流入負荷の増加等に伴う水質悪化
→アオコが発生し、景観悪化や他の水生生物の斃死が起こっています

生物多様性の保全のための様々な取り組み

陸水域は、国土の生態系ネットワークの重要な軸となっており、河川、湖沼、湿地等で生じている様々な問題は、私たち人間の暮らしと密接に関係しています。

例えば、水利用や治水を図るためにダムや横断工作物が造られた結果、魚類の移動阻害が起きて再生産が妨げられてしまったり、食料やレジャー、鑑賞等を目的として導入した外来種が在来種を駆逐してしまったり、といったように、暮らしを良くすることを目的として行われてきた事業等が、結果として生物多様性の低下を招いてしまった例が多々あるのが現状です。

このような現状に対し、住民、漁業関係者、民間団体、企業、行政等の様々な主体による生物多様性の保全のための取り組みが広がってきています。ここではその一部を紹介します。

外来種対策

平成17年に外来生物法が施行され、外来種対策が積極的になされるようになった一方で、新たな外来種の侵入や、既に定着してしまったものの分布拡大は未だ大きな課題として残されています。

外来種の被害拡大を抑えていくためには、何よりも正しい知識の普及と、市民や行政、企業等が一体となった対策への取り組みが必要です。

ここでは、陸水域で問題となっている外来魚と外来植物の対策の実施状況に注目しました。

外来魚の駆除

オオクチバスやコクチバス等の外来魚は、在来の生物を捕食するなど生態系への影響が懸念されています。各地で漁業関係者を中心とした駆除活動が展開され、駆除した外来魚を魚粉に加工するなどの有効活用にも取り組んでいます。



外来魚対策マニュアル

外来植物の対策

ボタンウキクサやホテイアオイ等の外来の水生植物は、繁殖力が強く、河川や湖沼等の水面を覆い尽くすため、水中でのプランクトンの光合成を妨げて酸素供給を阻害したり、景観阻害等が懸念されています。被害の著しい琵琶湖や淀川では効果的な駆除方法や駆除した水草の利用方法等が検討されています。